

JC NEWS 2023 SPRING

理事長挨拶

一般社団法人宮崎青年会議所 第72代理事長の川越大輔と申します。平素より宮崎青年会議所の活動に多大なるご理解とご支援を賜り、深く御礼申し上げます。さて、2023年度は「Update～多様化する価値観を受け入れ変化に挑戦する～」のスローガンのもと、ダイバーシティ&インクルージョンの中で様々な価値観を受容し、更に自分たちの自己成長を望むべく運動を展開してまいります。そこで私は3つの事業構築の柱を掲げました。

- ①71年の歴史を受け継ぎ、今の社会に求められる事業を行うこと
- ②恩送りを意識した人材育成を行うこと
- ③他団体を巻き込みながら事業を構築すること

新型コロナに始まった昨今の社会課題はどれも根深いですが、このような時だからこそ、我々青年が立ち上がらなければならないと現役会員は使命感をもって事業に取り組んでおります。引き続き、愛する郷土みやざきのために邁進してまいります。結びとなりますが、本年は2018年全国大会宮崎大会から5年目を迎えます。8月に開催される5周年記念式典・祝賀会に向け、現役会員一丸となり計画を進めてまいります。2023年度も何卒よろしくお願ひ申し上げます。



一般社団法人宮崎青年会議所
第72代理事長
川越 大輔

新年挨拶会

2023年1月11日に約3年ぶりとなる新年挨拶会をニューウェルシティ宮崎にて行いました。招待者12名、シニアの先輩方56名にご参加いただき、近年では稀にみる大人数での開催となりました。太鼓同好会の演奏と宮崎大宮高等学校書道部の書道パフォーマンスのコラボレーションにてオープニングを飾っていただきました。その後の川越理事長による所信表明ではスライドと組み合わせた演出を取り入れました。理事長の今年度にかかる思いがその一言一言から感じ取れメンバー全員の気持ちも一つになったのではないのでしょうか。新型コロナウイルスがとて心配されましたが楽しそうに交流を図るシニアの先輩方や現役メンバーの笑顔を見ると開催して良かったと心の底から感じる事ができました。理事長所信の動画につきましては宮崎青年会議所公式YouTubeチャンネルやFacebookでもご視聴いただけます。



シニアクラブ会長挨拶

数日前に、宮崎青年会議所シニアであり、宮崎県議会議員である日高陽一氏に「宮崎には、もう新幹線は持って来れんとね。」と話す。新幹線を通す為の用地買収や、整備の予算を考えたら、空飛ぶクルマを、飛ばした方が経費を抑えられる」と言われた。「えらい未来の話をするなあ。」と、中途半端な返事をしていました。そうしたら、令和5年2月17日の宮日新聞に、2025年の大阪万博で、空飛ぶクルマの運行事業者が決定したと記載してあった。2年後の万博で、運行実現のために、展示運行される。もしかすると、7・8年後に実用化されるのではないだろうか。私は、夢を売る仕事(旅行業)に携わりながら、約2年半、コロナで全く機能しなかった。脱コロナ後も、夢を売るような仕事が出来るとは考えにくい。それに比べると、近未来に夢(空飛ぶクルマ)がある社会は素晴らしい。負けずにポジティブに社業を続けていこう。そして長生きしよう。もうすぐ、明るく豊かな世界、そして社会が出来るのだから。



一般社団法人宮崎青年会議所
シニアクラブ 第62代 会長
廣川 拓也



京都会議

今年度一発目の渉外事業となる、京都会議が開催されました。JCI日本の2023年度の活動を共有しようとする多くのメンバーが参加いたしました。河野幸治出向役員を始めとする多くの出向メンバーの活躍やJCI榎原、JCI小林の方々との交流を通し、たくさんの刺激や学びを持ち帰ることができました。最終日には参加者全員で会頭所信を拝聴し、メンバー一同改めて2023年度のJC活動に対して熱い思いを抱いて前進することができました。現地には約40名、LOMナイトやJCI榎原、JCI小林との懇親会では70名以上の参加がありとても充実した渉外事業となりました。

理事役員紹介

理事長 川越 大輔	直前理事長 植松 剛史	副理事長 高畑 智穂	副理事長 浅野 龍昇	専務理事 山崎 隆太郎	出向役員 河野 幸治
監事 西田 俊明	監事 関谷 祐作	常任理事 野村 翔悟	常任理事 甲斐 智大	常任理事 星山 剛	常任理事 遠山 貴一
常任理事 柿塚 健太郎	理事 椎葉 哲也	理事 曾地 英樹	理事 河野 宏輝	理事 中村 友哉	理事 村社 司
理事 田所 伸吾	理事 藤元 克希	理事 守永 将雄	理事 川越 貴晃	理事 高山 祥平	

LOM国際協力プログラム最優秀賞

AWARD JAPAN 2022において、2022年6月にJCI宮崎が実施した「みやざきインターナショナルフェスタ ～ ワールドテラス ～」がLOM国際協力プログラム賞において最優秀賞を受賞いたしました!! 新型コロナウイルスの影響により人的交流の機会が減少するなかで、在住外国人をはじめとするマイノリティが孤立せず、ともに支えあう住み暮らしやすい社会を形成するための相互理解の機会として実施した事業でした。宮崎県内においては、令和3年度の県民意識調査によると「回答者の85.4%が外国人や外国の団体との交流等に関連する行事に参加したことがない」と回答しており、まだまだ相互理解、共生意識の醸成に向けては課題が山積しています。宮崎青年会議所としては、この在住外国人の方々との共生を含めた、ダイバーシティ&インクルージョンの実現に向けて、今後も運動を展開してまいります。その弾みになる賞をいただき、誠にありがとうございました。



福岡ソフトバンクホークス交流事業

福岡ソフトバンクホークス選手団の皆様との交流事業を今年度は生目の杜運動公園内の体育館で行いました。メンバーのお子様や様々な児童施設から元気いっぱいの子供たちに集っていただきました。初めに球場の方で選手たちの練習を見学した後体育館に戻り選手たちと様々なゲームを通し交流を行いました。元気いっぴいな子供たちと交流する選手たちはキャンプの疲れを感じさせない程楽しそうな表情をしていました。我々青年会議所としても選手たちはもちろん、参加していただいた子供たちの笑顔を見ていると事業構築の苦勞も吹き飛び、明るい豊かな社会に向け行動ができたのだと実感することができました。今後も若い子供たちが笑顔になれるよう活動を頑張っていきたいと思っております。